

アンケートより

●もう少しアクションのあるものが見たかった。

●『記憶の迷路』のような実例的なものをもっと扱ってほしい。下條さんの話はとても興味深いのに、中身が多すぎて、的を絞ってほしい。

●難しい内容に思えたが、段取りがスムーズで映像の工夫もされていて、見やすく面白かった。タイムマシンの話をもっと聞きたかった。

●けっこう難しかったが面白かった。息抜きになるようなものがもう少しほしかった。

●ビジュアルを使った説明がもっとあるといい。

●哲学と物理の方の対話をもっと聞きたかった。

●テーマを決めてさまざまな分野から見ようという欲張りな点が評価できます。特に物理学という自分が不得手な分野を少し見ることが出来たのは刺激になりました。ただ短い時間でのレクチャーでどうしてももう少し聞きたい、知りたいという気持ちが残って不完全感があつたのも事実です。

●ちょっと慌しかった。内容がとても興味深いだけにもったいなく思った。

●もっと時間的制約を気にせずに出演者の方のお話をうかがえるといいですね。哲学も物理学もテクニカルな話を端折ってしまうと興味の過半が損なわれてしまうように思います。ゲストの数も減らしたほうが充実した話がうかがえるかも。

●言語的なアプローチが多かったので、次回はビジュアル的な方面で同様なテーマを扱ってほしい。

●芸術、文理両方から1つの現象、事項についてレクチャーがあることはとても楽しくおもしろかった。さまざまな事を考える上で、「発見」の引き金となる「周辺」となる気がした。

●学問のコラボレートがすごくおもしろくて大切なことだと感じました。

●過去・現在・未来、ここに来るまでは螺旋状に上がっていく感じがしていたが、未来が現在に影響を与えているなんて驚きだった。

●アートよりの人でももっと楽しめるような分かりやすいビジュアルや映像表現の盛り込まれたレクチャーがあるとよりいいと思います。

●時間については、宇宙物理学の空間の問題からのアプローチもほしかった。

●生きるということに時間と記憶が深く関わっていると感じました。

●一つ再認識したのは「記憶」は「過去の再生」ではないということ。

●記憶をいろいろな角度から考察していて興味深かった。特に物語と記憶の実験。

●これまで、物理学や哲学における時間についてのお話を第一線の研究者のかたから伺う機会が少なかったので大変勉強になりました。

「時間と記憶」については、私にとっては日頃から気になるテーマでもあり、また気になるキーワードがちりばめられていたので、これまでのRGのテーマの中では一番身近なものだったように感じました。

仲さんのビデオレクチャー（ビデオという感覚はあまり残っていないのですが）は、記憶の分類や時間の概念が理解できるまでの過程についての報告、幼児期の体験と情報の混同など、いずれも理解しやすく、興味を持って聴くことができました。『高等な動物ほど未熟に生まれてゆっくり育ち、ヒトはその最高峰にある。ヒトが極端に運動機能が未熟な状態で生まれなければならない理由として、胎内にはない「情報」が言語機能を成熟させるための絶対的な要素だから・・・』という話を本で読んだことがあります、まさにその過程であるように思いました。

また、物理学と哲学の視点から時間へのアプローチがなされた点などは絶妙で、「数式v s 概念」の2項対立を想像したものの、いずれの内容も違和感なく受け入れることができ新鮮でした。

田崎さんの「可逆性と不可逆性」「カオス」「時間の向き」を解説した映像は分かりやすかったし、時間の謎を「物理学では問えない問い」として語ってしまうところに研究者の真摯な姿勢を感じました。

植村さんの過去・現在・未来という時間の分類と「私がどこにいるのか？」の関係性の話は、とても興味深かったのですが、初めのレクチャーでは話の波長のせい、途中思わず睡魔に襲われそうになりました。でも、話の内容はちゃんと耳に届いていたから不思議です。

下條さんの話にはいつも引き込まれてしまいます。内容ももちろんですが、実験的な要素も含まれているため、いつの間にか

被験者にさせられていることもあり、レクチャーを聴きながらも追体験し、自分でも確認できるというのも一つの要因かもしれませんが。タナカさんの映像「OUT OF THE PASSAGE」は8月の個展で既に目にしており、デザイン雑誌でも「OUT OF・・・」について紹介されていたので、どのようなスタンスをとろうとしているのか大凡の検討はつきました。物語性に依存しないで、纯粹に映像の強さだけで何を伝えられるのか……。答や意味を探すのではなく、素の中に何を見出すことができるのか……。そんな実験を相変わらず続けていることを、あらためて確認することができたような気がします。

最後に、「時間」と「記憶」について、私が思うことを付け加えておきます。「時間」について私が最も強く意識したのは、前回のRGの感想文でも一部触れたように、死のレベルについて考えた時です。『細胞死、脳死、心臓停止、死亡診断書、葬儀や火葬という儀式、戸籍等の登録の抹消、第三者への死亡通知、そこに存在しないという死の認識、歴史や記録の消失、……。死のレベルは多様であり、ゆるやかな時間の経過の中での出来事であり、その瞬間をどこに定めるのかは、結局のところ人の意識によって決められ、制度や社会的な通念によって確認されるものだと考えるのでした。(前回の感想文より)』このことは、死の瞬間(死亡時刻)が点で表わされているのに対して、その瞬間を自分では確認できなかった(ドラマのように首がコトンと動くのを目撃することはなかった)ために、その曖昧さに驚き、その後にあれこれと考えた結果です。出生時刻も同じなのかもしれません。航海中の船の中で生まれた叔母は、出生届けの期限に間に合わず、戸籍上と実際の誕生日とは異なっているのだという話を、幼い頃に聞いたことがあるように記憶しています。「時間」は世界共通の共同幻想……。最近読んだ中田力氏の書いた「脳の方程式+α」という本の後ろのメモの項目で、「存在しない日々」としてグレゴリー歴が紹介されていました。『1年=365日5時間48分45.5秒であるから、閏年ごとに1日を足しても約128年に1日が超過するものの、1582年まで放置されたままであった。ローマ法王グレゴリー8世は、1582年に10月4日の次の日を15日にすると宣言し、長年の間に蓄積した超過分10日を帳消しとしたため、1582年には10月5日から14日までが存在しない。……。』とありました。ちょっと驚き。でも、ある意味で「時間」を説明する象徴的な話かも……。

「記憶」については、10代の頃には忘れることをあまり許容できなくて、特に単純暗記ものは嫌いでした。本を読み始めても、前の部分を忘れていると思うと、また最初から読み直し、結局最後まで読めないこと

もあつたり……。昔は結構しんどくて、たいへんでした。

でも最近は、情報量も多く、その上環境の変化も激しいし、更には本当のことばかりでもなさそうだし、過去の記憶は常にリニューアルしておかないと今の判断の阻害要因にもなりかねないので、「必要な時に必要なことを調べればいい……。」「くらいにしか思っていない部分もあります。また逆に、過去の「記憶」を検証し直すことなくそのまま引用することは、リスクを大きくする可能性があると考えている節もあります。そういう意味では、全ての情報を単純に記憶するのではなく、重要と思われる情報だけを残して再構築する方が、合理的だと思います。「記憶」は過去の感傷に浸るためのものではなく、現在そして未来を正しく導き、種が滅亡しないために用意された機能の一つなのかも知れませんね。

ついでにもう一つ、「時間」と「記憶」に直接関係しないかもしれませんが、面白いと思った話を付け加えるとことにします。友達の親戚に灯笼の修復を仕事にしている人がいて、その人が修復時に考えることは、新品同様に仕上げるのではなく、どれくらい時間が経過した時の姿に修復するかということなのだそうです。その話を聞いて、「修復」とは、新しい状態に戻そうとするものではなく、一番いい状態を再現することなのだと思ったのでした。

地層は必ずしも下から順番に積み重なっているのではなく、断層になったり、逆転している場所があったり……。自然の摂理がそうであるように、「時間」も「記憶」も単純な積み上げではなく、何かの力が作用した時(感情や意識が刺激された時等)に、断層ができたり、逆転したりするのも思えないと思うのでした。